

真木序家文書目録と目録の作成について

- 1 本史料「真木序家文書」は、真木家に残る史料を現当主の真木博夫さんが、須坂市史の研究・編さんのために役立ててほしいと、須坂市にご寄贈くださったものです。

真木序家文書の全容は次のようです。

① 江戸時代の書籍	11点
② 明治時代の書籍	7点
③ 大正時代の書籍	3点
④ 展覧会目録	1点
⑤ 御守護札など	4点
⑥ 絵はがきなど	308点
計	334点

文書①の中の「軍用記」は、天保14年(1843)に公刊されたもので、全巻揃っていて貴重である。復古的軍陣故実の書である。著者は伊勢貞丈である。軍陣の作法を子孫に教えるために伊勢家に伝わる書を集成したものである。混乱する幕末の世相を反映し「武士必須の軍陣故実の初歩的入門書」として多くの人達に愛読されたという。

文書⑥は、大量の絵はがきであるが、明治～大正～昭和にかけての当時の世相がうかがい知れて参考になる。

2 真木序について

真木家は、須坂藩江戸屋敷に仕える士族であったが、明治4年(1871)の廃藩置県で江戸藩邸を引き払い、須坂に引っ越し、高橋地区(須坂市)に住むようになった。明治2年生まれの序(のぶる)2歳の時であった。

明治8年、大谷地区に開設された潤身学校に入学する。卒業後、母校の授業生となり、明治25年(1892)24歳で小学校準教員の免許状を取得する。その後、大正13年(1924)に没するまで44年間同一校に勤務した。

その間、同窓会、婦人会、青年会などの創立にもかかわり、全村に及ぼした教育実践は極めて偉大で、長野県知事から表彰を受けた。

鍛練的な指導の中に、

- ① 児童の個性を生かし、個人指導に主力を注いだ。
- ② 時には学校の事務、時には役場の仕事を手伝い、あるいは、高橋地区で夜学塾を開いて、尋常科卒業生に代数・ローマ字なども教えた。

大正14年、村民はその遺徳を偲んで頌徳碑を建立している。

- 3 史料の整理、文書目録の作成は、市誌編さん室専門員浅沼彌吉が行い、本解題は小林裕(前編さん専門員)が執筆した。

2015年 9月 4日

須坂市誌編さん室